

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2019年12月30日

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込		
過去1ヵ月間	2.10	1.45	第13期 2015/03/10	0
過去3ヵ月間	3.92	8.59	第14期 2016/03/10	0
過去6ヵ月間	5.72	12.27	第15期 2017/03/10	0
過去1年間	14.43	18.12	第16期 2018/03/12	0
過去3年間	26.22	21.31	第17期 2019/03/11	0
設定来	153.98	114.04	設定来累計	1,300

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	65.7	33
ショート	-30.5	50
債券	0.0	0
キャッシュ等	64.8	—

※比率は対純資産総額

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	51.2
東証2部	0.0
ジャスダック	1.5
その他	13.0

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
不動産業	12.1
情報・通信業	8.7
機械	7.4
電気機器	6.5
サービス業	4.9
その他	26.1

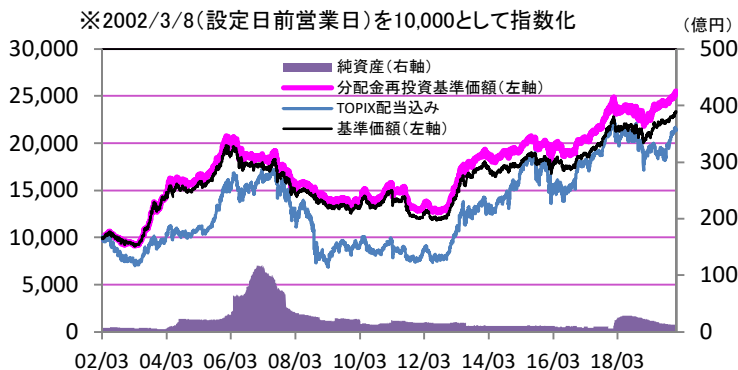
※比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
23,306 円	23,237 円	12.26 億円

ハイ・ウォーター・マーク: 22,303 円

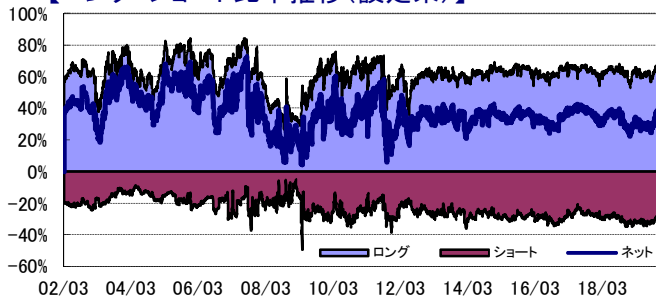
※基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



※2002/3/8(設定日前営業日)を10,000として指数化 (億円)

※基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



【組入有価証券上位10銘柄(ロング)】

銘柄	業種	比率(%)
1 日揮ホールディングス	建設業	4.2
2 ユニゾホールディングス	不動産業	4.1
3 ティーケーピー	不動産業	3.6
4 SUMCO	金属製品	3.5
5 SMC	機械	3.5
6 リックソフト	情報・通信業	3.4
7 村田製作所	電気機器	3.3
8 サンフロンティア不動産	不動産業	3.3
9 SBIホールディングス	証券、商品先物取引業	3.1
10 ペプチドリーム	医薬品	3.0

※比率は対純資産総額

※上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。
※「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファマンスリーレポート
基準日 2019年12月30日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2019年12月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比1.45%の上昇となりました。

当月の日本株式市場は、中国経済指標の改善や円安の進行により上昇して始まりました。その後は、米中貿易交渉の進展期待の高まりや、英国総選挙の結果に対する懸念後退などから堅調に推移しましたが、月終盤は材料不足や年末年始を控え市場参加者の減少により、落ち着いた展開となりました。

【運用状況】

12月の当ファンドはマクアケ、日揮ホールディングスなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

マクアケは、12月に東証マザーズに上場したクラウドファンディング運営事業者です。同社については後段にて詳しくご説明します。日揮ホールディングスは、原油価格が上昇したことでプラント建設の事業環境が改善する見通しが高まったことから、株価が上昇しました。

一方、トゥエンティーフォーセブン、ギフトなどが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

トゥエンティーフォーセブンは、11月に東証マザーズに上場したパーソナルジムを運営する企業です。健康志向の高まりと効果発現に対する要求の高まりで、パーソナルジム市場の中期的な成長を見越して投資していましたが、業績見通しの下方修正を発表したことから株価は大きく下落しました。上場後わずか1か月で事業戦略の変更を余儀なくされるなど事業推進能力に対する疑念が生じたため、保有株式を全部売却しました。ギフトは東証一部への市場変更を見据えて10月以降で2回目の株式の立会外分売を実施したことで株式需給が悪化し、株価が下落しました。しかし新業態の展開や好調な既存店売上の推移から当月発表された2019年10月期決算では営業利益が前期比で29.8%増加するなど高い成長性が確認されていることから、株価下落は追加投資のチャンスと見て投資を行っています。

ポートフォリオは、株価水準が上昇したことでロング投資先を売却しネット・ポジションは前月に続いて低下しました。しかしながら企業業績の回復はこれから顕在化すると考えておりネット・ポジションの水準は35%程度と当社が考える中心値30%よりも高い水準を維持しています。

【運用方針】

2019年12月末の日本株式市場は、年末としては29年ぶりの高値水準まで上昇しています。

世界的な景気回復を先取りして楽観的なムードが支配的となりましたが、年始には米国によるイラン革命防衛隊のスレイマニ司令官殺害という事態が発生しリスクが顕在化することとなり、2020年も波乱含みの相場展開が危惧されます。

今年もスパークスの投資哲学に則り企業の本源的価値に注目して丁寧に投資する方針です。

当月は、東証マザーズへの上場日（12月11日）に買い付けた「マクアケ」についてご紹介します。

同社は「Makuake」というクラウドファンディング・プラットフォームを運営しています。クラウドファンディングには様々な形態、性質がありますが、当社が提供する主なサービスは、「売り手がMakuakeに商品企画を掲載し、不特定多数の買い手から資金を募り、商品を作り届けるための『先行販売の場』」であると私どもは捉えています。これまで顧客ニーズが読めずお蔵入りになっていたニッチなアイデア商品も「作る前に売れる」ため、日の目を見ることができるようになったことは、同社の起こしたイノベーションであると、私どもは考えます。

私どもが注目した点は、以下の三つです。

- ①同事業の先行者として最大手の地位を確立しているため、他のベンチャー企業が追随しづらくなっていること
- ②上場前にサービストラブルが発生し、成長より基盤整備に時間を割いた期間があり安定感があると考えられること
- ③顧客満足度を上げるための施策の引き出しが多いと考えられること

これらを勘案すると、中期的に高い成長率が維持できる確度は高いため、足元のバリュエーション指標は高く見えても企業価値は高いと判断し投資しました。クラウドファンディングの将来性への期待に加え、著名なサッカー選手や歌舞伎役者が上場前から株主であったことも注目を集める要因になり、株価は力強く上昇しました。一方で現状の多くの企画商品は新しいもの好きやマニア向けのため、顧客層の拡大に苦戦する可能性もあり、同社の取扱商品と顧客層の拡大状況を注視してまいります。

ショート投資では流通大手傘下の金融機関A、精密機器メーカーBに対してそれぞれ新たにショート投資を開始しました。流通大手傘下の金融機関Aは急速に進み始めた国内のキャッシュレス化が同社にとって逆風になり、安定していた収益が減少トレンドに入ると考えています。精密機器メーカーBは、一眼レフ市場の縮小が加速していることに加え、比較的堅調なミラーレス一眼レフ市場での出遅れが響き、減配のリスクが高まるなど収益が減少する公算が高いと考えています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。